

[巻頭随想]

日本ブドウ・ワイン学会札幌大会によせて

～道産ワイン懇談会と ASEV JAPAN～

道産ワイン懇談会

会長 勝井勝丸（北海道池田町長）

1984（昭和 59）年、道内ワイナメーカー7社で発足した道産ワイン懇談会は、現在 17 社（道内の果実酒製造免許取得は 20 社を超えている）の会員数となり、まだまだ増え続けることが予想されています。スタート当時のワイン専用ブドウ品種といえば冷涼な北海道の気候に適したドイツ系品種が主体でしたが、さすがにフランス系専用種シャルドネ、ピノ・ノワール、メルローなどは当時の気候では道内の果樹産地である後志地区（余市町、仁木町）においてもまだまだ挑戦できる環境ではありませんでした。

世界的な自然環境の大きな変化である地球温暖化が問題となっていますが、北海道におけるワイン用ブドウの栽培にもその影響が現れてきています。ここ 30 年間の道内平均気温は明らかに高くなっており、小春日和の 11 月を体験することも多くなりました。霜の被害を最小限に抑えることができれば、これまで栽培が難しいとされてきた品種への挑戦も可能となり良質なブドウ生産が期待されます。そして近年、北の大地にブドウ栽培とワイン醸造を夢見ての入植やワイン産業への挑戦が盛んに行われるようになってきました。

ワイン用ブドウ栽培面積の全国一を争うようになった北海道、面積だけではなく醸造されるワインも国内先進地に引けを取らない個性のある上質なものとなり、日本の代表的なワイン産地になるよう日々研鑽しているところです。

ASEV JAPAN とのかかわりでは、第 10 回を記念して行われた 1994（平成 6）年の年次大会まで遡り、

それまで甲府と東京で交互に開催していた大会を初めての地方大会として北海道池田町で行いました。2002（平成 14）年にも同じく池田町で開催され、北海道開催は今回で 3 回目となります。今回は、北大を会場に経済と観光・文化の中心地：札幌市での開催となりますので、交通移動手段や宿泊施設の心配が少なく、ASEV 会員も含めて全国のブドウ・ワイン研究者が集まり易い環境になっています。また、夏場の開催ではありますが、涼しい北海道の気候を十分に堪能していただき、ワインと食の文化も楽しんでいただければ幸いです。

道内のブドウ栽培・ワイン醸造の技術向上と情報交換を目的に結成された道産ワイン懇談会では、1996（平成 8）年から道産ワインを広く PR するため「北を拓く道産ワインの夕べ」というワインパーティーを毎年札幌で開催しています。現在では道産チーズメーカーや食肉加工メーカーも加わり、700～800 名の参加者で盛大に行われ、それぞれ個性のあるワインを同会場で一度に多社のワインを味わえるパーティーとして、来場者に楽しんでいただいています。